

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

Bangladesh 人民共和国 カハロル地域開発プログラム(BGD-192233)



母親に抱かれるキヤちゃん(6歳)と姉、祖母

チャイルドストーリー

障がい乗り越える希望が持てるようになりました

カハロル地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすキヤちゃんは、生後10カ月の時に腸チフスにかかり、その後遺症で足が不自由です。大きくなるにつれて歩けないことがわかり、両親は目の前が真っ暗になったと言います。「障がいは悪事の罰だ」と考える親戚や近所の人に、キヤちゃんが歩けないことで悪口を言われ、母親のディプティさんはとても辛い思いをしていました。

そのような日々から抜け出そうと、ディプティさんはキヤちゃんをワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録しました。最初は学校に行くのを嫌がっていたキヤちゃんですが、ADPの活動に参加するうちに明るく積極的になり、今では友だちに会うのを楽しみに毎日学校に通っています。歩くことができないため、ディプティさんが学校まで片道1キロの距離を送り迎えしています。

それでも、「これからずっと歩けないなんて」と悲しんでいたキヤちゃんに、ADPの支援によって新たな希望の扉が開かれました。ADPのスタッフがキヤちゃんを病院に連れて行き、医師に診てもらったところ、歩行訓練をすれば

歩けるようになるかもしれないことがわかったのです。病院から歩行訓練のための器具を借り、キヤちゃんは一生懸命歩く練習をしています。

絶望し暗く沈んでいた家族にとって、支援を受けて明るく頑張っているキヤちゃんの笑顔は、希望の光となっています。



ADPの支援で提供された器具を使って歩行訓練をしています

保健衛生プロジェクト

5歳以下の子どもと、母親たちの栄養改善に取り組んでいます



栄養改善プログラムに**483**人が参加

2014年度も、地域の子どもたちにとって最も大きな課題となっている栄養不良の改善に取り組みました。特に栄養状態の悪い3歳以下の子どもとその母親を対象にした栄養改善プログラムを実施し、483人が参加。安価な食材を使った栄養バランスのとれた食事の作り方や、手洗いなどの衛生

的な習慣を学んで実践しました。これまでの活動の結果、栄養不良の5歳以下の子どもの割合は45%（2012年）から41%に減少していますが、依然としてその割合は高く、継続した取り組みが必要です。また、子どもの病気や産前産後の健診についての啓発も行いました。



栄養改善プログラムに参加する子どもと母親たち



手洗いのためのバケツの支給を受ける地域の人々



支援地域の女性のストーリー

幼い孫たちの将来に希望が持てるようになりました

ロトン君は祖母と弟とともに暮らしています。父親は4年前に病気で亡くなり、母親は再婚して遠くに住んでいます。高齢の祖母のパクさんは日雇いで懸命に働いていますが、育ち盛りの2人の孫に満足な食事を与えることができないのを気に病んでいました。

しかし、ロトン君がWVのチャイルドとして登録され、支援を受けるようになってから、生活は少しずつ変わり、幸せと希望を感じられるようになったと言います。「早婚の危険性、子どもの権利と保護、衛生的な習慣の重要性について、ADPの活動を通して多くを学びました。孫はWVから学用品や生活用品を提供してもらい、とても喜んでいます。もらった本を朝晩読み、毎日学校に通っています。2人は食事前に手を洗うようになりました」と笑顔で話すパクさん。父親が何の治療も受けることができずに亡くなったロトン君の将来の夢は、「お医者さんになること」です。

悲しんでばかりだったパクさんは、今では近所の人たちに、ADPの活動を通じて学んだこと、生活が変わったこと、幸せな毎日を過ごせるようになったことを話しています。



ADPの支援を受けるロトン君（右、8歳）と祖母のパクさん、弟のソジ君

教育プロジェクト

子どもたちの教育の環境の改善と、質の向上を目指しています



中学校の卒業試験の合格率が**87%**に向上

地域住民と協力して運営している20の就学前教育センターで、6歳以下の子どもたち478人が学びました。地域のある小学校の校長は、「就学前教育センターで学んでから入学した児童は授業にもよく参加し、質問への反応が早い」と話しています。また、PTAや地域住民から成る学校運営委員会

や教師へのトレーニングを行い、178人が参加。さらに、小学校2校に学校備品を支給しました。支援を受けている中学校では卒業試験の合格率が87%に向上するなど、少しずつ改善が見られています。



就学前教育センターに通う子どもたち



学校で使うワークブックの提供を受けた小学校2年生の児童たち

地域組織化プロジェクト

持続可能な支援を目指して、地域の様々なパートナーと協力して活動しています



特に貧しい**154世帯**の経済活動を支援

活動開始から3年目となり、地域住民のADPへの参加も本格化しています。2014年度は、4つの開発グループと23の村落開発委員会とともに活動。各グループへの組織力強化のためのトレーニングや、子どもの健やかな成長のために必要な知識を深め、早婚の危険性への認識を高めるための啓

発活動を行いました。また、支援地域でも特に貧しい154世帯を対象に、収入向上を目的として牛・ヤギの飼育のトレーニングを実施しました。これらの活動には、特に女性たちが積極的に参加しています。



牛の飼育トレーニングに参加する女性たち



子どもの健康と発育を確認するための母親の集会



ADP マネージャー・インタビュー

Q どんな仕事をしていますか。

A ADPの責任者として、予算に基づいたプロジェクトの企画運営、行政や関係機関との交渉や連携、プロジェクトの報告と評価、ADPスタッフの管理などを行っています。

Q 2014年の活動で困難だったことは何ですか。

A 支援地域では早婚が深刻な問題であり、43%の少女が18歳までに結婚します。早婚の結果、8



カハロルADPのスタッフ。後列右がマネージャーの
ロンジョン・ジョン・ポール・ロザリオ

年生のクラス20～30人の生徒のうち、9年生に進むのが10～20人、10年生に進級するのは半分以下です。問題解決のため、地域のNGOと連携して、10代の少年少女300人以上の家庭を訪ね、早婚の問題点を話しました。早婚の報告が入ったら行政に連絡し、思いとどまるよう説得しました。この結果、2014年には6件の早婚を防止しましたが、いまだに根深い問題であり心を痛めています。

Q WVで働く原動力となっているものは何ですか。

A 私は子どもが好きなので、集会などで子どもたちが寄ってきて、自分たちのことを話してくれるのが嬉しいです。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



子どもの出生登録の重要性についての啓発イベントに参加する母親たち

会計報告

BGD-192233

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

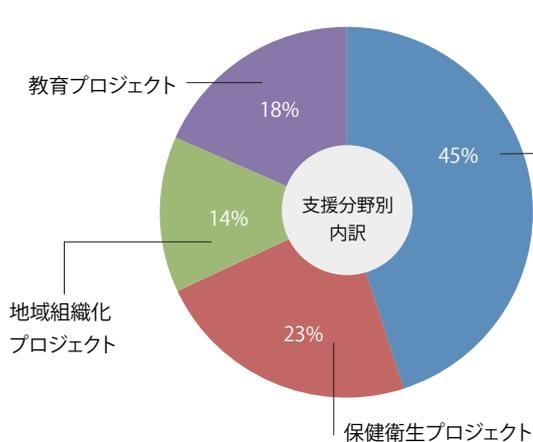
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	28,803,031
当期支援額	28,803,031
前期繰越金	296,145
プログラム支援額合計	29,099,176

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	13,868,666
保健衛生プロジェクト	7,075,574
地域組織化プロジェクト	4,184,740
教育プロジェクト	5,663,930
プログラム支出額合計	30,792,910
次期繰越額	-1,693,734

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 (平日 9:30～17:00)
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
e-mail：dservice@worldvision.or.jp